

### 6月～8月／コミュニティワークショップ



沿岸コミュニティの住民と漁師が集まり、ワークショップを継続的に開催しました。

これまで地方政府からマングローブの苗を配られても、適当な場所に植林し、後になって邪魔になり伐採してしまうこともよくありましたが、今回からは、漁師や住民自身で十分な話し合いの場を持ち、植林地の選定を行い、初めて活動計画も策定しました。

### 8月～9月／苗床設置



苗床で育てられるマングローブの赤ちゃん



苗の成長状態を話し合うコミュニティの若者たち

マングローブの活着率を高めるために苗木がある程度成長するまで育てる試みが始まりました。

数カ所での試験苗床の結果、川沿いのすでに大きく成長したマングローブ林の下に設置した苗床が最も成長率が高いことがわかりました。

### 11月／マングローブワークショップの開催



マングローブや沿岸の環境保全に関係する様々な関係機関が集まり、これまで無計画に行われてきたマングローブ植林の失敗を反省し、共有のビジョンや協力体制の必要性が確認されました。

【写真】マングローブ植林の課題を話し合う 関係機関やコミュニティ代表

### 12月／マングローブ植林サイトの整備



海岸線の植林サイトは高潮や浸食によって流されやすくなります。植林前に海岸線に古タイヤの防波堤を設置しました。これによって、海面上昇で失われてしまっていた数カ所の養殖場をまた使えるようになりました。

古タイヤの堤防は波力により 2～3 年で壊れてしまうコンクリートの堤防に比べ、耐久性に優れ、また環境影響も少なくなります。また、マングローブが成長すればタイヤは撤去できます。

【写真】古タイヤとマングローブのコラボレーションで浸食緩和